

西の内遺跡

平成25年6月

宇都宮市教育委員会



22号遺物出土状況



41号セクション

序

本遺跡の所在する宇都宮市南西部は、姿川流域を中心に国の指定史跡である根古谷台遺跡をはじめ、数多くの遺跡が散在し、古来より私たち祖先の営みを窺うことができます。

今回発行となった株式会社無限開発の宅地造成に先立ち、埋蔵文化財の取り扱いについて、事業者と協議をいたしました。その結果、遺構保存が行えない道路部分に関して記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。調査によって土坑や地下式坑、井戸、溝、堀、柱穴群を確認することができました。

本書はこれらの成果をまとめ、刊行するものであり、関係各方面におかれまして十分ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・発行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力をいただきました地元関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成25年6月

宇都宮市教育委員会

教育長 水 越 久 夫

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市西川田町に所在する西の内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 西の内遺跡の調査は、住宅団地造成に先立つ調査である。
- 3 調査期間は次のとおりである。
平成24年7月17日～8月3日
- 4 調査面積は470㎡である。
- 5 西の内遺跡の発掘調査での測量、写真撮影等は石川和弘・君島直人・前原義之・近藤真・今平利幸がこれにあたった。
- 6 遺構・遺物の整理、実測などは、齊藤しのぶ、中山真理、鈴木千佳子、村上啓子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、齊藤しのぶ、中山真理がこれにあたった。
- 7 本書の執筆は石川と今平がこれにあたった。
- 8 本遺跡で出土した遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 9 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔調査主体〕

宇都宮市教育委員会 教育長 水越久夫

教育次長 手塚敏男

調査担当 文化課長 赤石澤亮

文化課長補佐 鈴木光世

文化財保護係長 富川努

文化財保護係 石川和弘・君島直人・前原義之・近藤真・今平利幸

〔調査補助員〕 古澤美智子、千葉ヨシ、湯田荘、入江春江、篠崎安子、仁平アキ子、鈴木一二

- 10 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに次の諸機関及び諸氏のご指導を賜った。記して感謝を表したい。(順不同、敬称略)
(株)無限開発、(株)資産管理協会、黒木建設

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構が1/50とし、遺物は1/3もしくは1/4で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ルーム粒…LR ロームブロック…LB 今市パミス…IP 鹿沼パミス…KP 炭化物…C
4. 遺構においては次の略号を使用した。
溝…SD 土坑…SK 不明…SX

目 次

巻頭図版

序・例言・凡例・目次・挿図目次・表目次・図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過

1 調査に至る経緯と経過	1
--------------------	---

第2章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境	3
2 歴史的環境	4

第3章 調査概要

1 遺構	8
2 遺物	9

第4章 おわりに	23
----------------	----

挿 図 目 次

第1図	西の内遺跡確認調査図	2
第2図	西の内遺跡の位置図	3
第3図	西の内遺跡の地形図	4
第4図	周辺遺跡分布図	5
第5図	遺構配置図	11・12
第6図	土坑等平・断面図(1)	13
第7図	土坑等平・断面図(2)	14
第8図	土坑等平・断面図(3)	15
第9図	土坑等平・断面図(4)	16
第10図	溝跡平・断面図	17
第11図	出土遺物実測図(1)	18
第12図	出土遺物実測図(2)	19
第13図	出土遺物実測図(3)	20
第14図	出土遺物実測図(4)	21

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	6
第2表	土坑・柱穴一覧表	10
第3表	出土遺物観察表	22

図 版 目 次

巻頭図版

	22号遺物出土状況
	41号セクション
PL 1	①全景(東より) ②全景(西より) ③1号・2号出土状況(東より) ④4号・5号セクション(南西より) ⑤8号完掘状況(南より) ⑥9号セクション(南より)
PL 2	①10号セクション(南より) ②9号・10号完掘状況(南より) ③12号セクション(北より) ④13号セクション(東より) ⑤14号セクション(東より) ⑥15号セク

ション(南より) ⑦16号セクション(南より) ⑧15号・16号完掘状況(北より)

PL 3	①17号セクション(南より) ②18号セクション(南より) ③19号～21号完掘状況(南より) ④22号遺物出土状況(北より) ⑤22号完掘状況(東より) ⑥22号遺物出土状況(北より) ⑦24号完掘状況(西より)
PL 4	①25号・26号セクション(東より) ②29号・30号セクション(東より) ③31号セクション(南より) ④32号～34号完掘状況(西より) ⑤33号セクション(北より) ⑥33号セクション(南より) ⑦40号セクション(南より) ⑧41号・46号セクション(北より)
PL 5	①42号・50号完掘状況(東より) ②43号セクション(北より) ③44号セクション(南より) ④44号セクション(西より) ⑤44号出土状況(西より) ⑥43号完掘状況(北より)
PL 6	①43号完掘状況(西より) ②43号完掘状況(東より) ③44号集石状況(南より) ④44号集石状況(北より) ⑤44号完掘状況(西より) ⑥44号完掘状況(東より) ⑦47号～49号セクション(北より) ⑧54号完掘状況(北より)
PL 7	①かわらけ(1)
PL 8	①かわらけ(2)
PL 9	①内耳土器
PL10	①茶白 ②石白 ③砥石 ④鉄製品 ⑤須恵器蓋

第1章 調査に至る経緯と経過

1 調査に至る経緯と経過

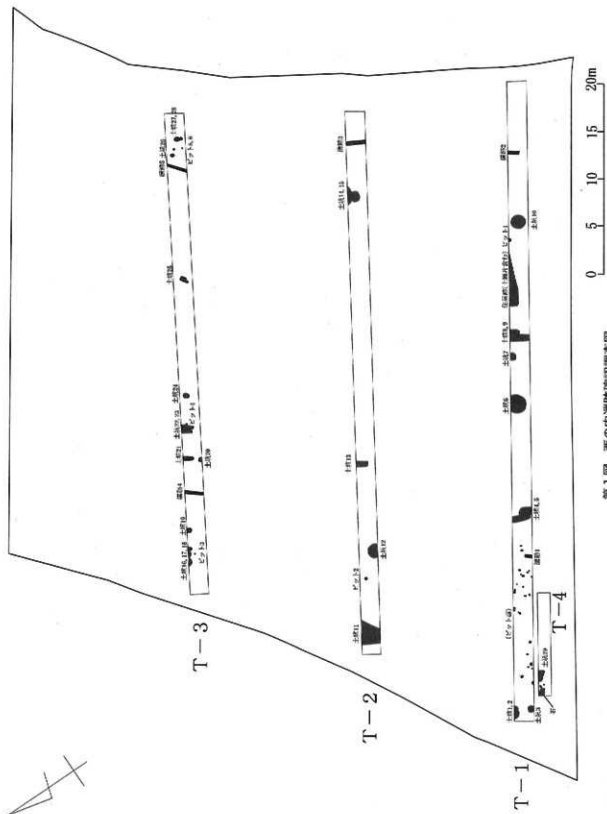
宇都宮市西川田町253-1に所在する、株式会社無限開発所有地(約4,200㎡)に対して宅地造成が計画された。当該地は、西の内遺跡(県番号 3210 縄文、奈良、平安時代 集落跡)と呼ばれる周知の遺跡である。本遺跡の西側では、宇都宮環状道路の建設に伴い、昭和62年～平成3年にかけて、栃木県教育委員会によって調査され、数多くの遺構・遺物が確認された。

今回の調査箇所は、道路建設時に調査をした区域と隣接しているため、遺構が確認される可能性は高かった。そこで、平成24年6月26日、27日に宇都宮市教育委員会(以下市教委)が確認調査を行った。

調査の結果、T-1からは、土坑が10基、溝跡2条、ピット群、竪穴建物跡と考えられる遺構が確認され、土器片(内耳土器)が数点出土した。これらの遺構は中世(15～16世紀)のものと考えられる。T-2からは土坑が5基、ピット1基、溝跡1条が確認された。T-3からは、土坑が13基、ピット4基、溝跡2条が確認された。T-3の遺構に関しては、地表下10cmの水田床土直下から掘り込まれていることから、近世以降の遺構であることが考えられる。T-4からは、土坑が1基と焼けた河原石がまとめて出土した。

この確認調査の成果をもとに、事業者である株式会社無限開発と協議した結果、T-3を含む道路予定地は、近世以降の遺構と考えられること、また、T-2は盛土を伴う造成で埋蔵文化財を壊す可能性が少ないことから、発掘調査の対象とせず、T-1、T-4を含む道路予定地部分(約470㎡)が古代～中世にかけての遺構が確認されたことから、調査を行うこととなった。発掘調査に必要な費用については原因者である株式会社無限開発が負担し、調査は市教委が担当することとなった。

発掘調査は、平成24年7月17日から平成24年8月3日までの約3週間にわたって実施した。



第1図 西の内道路確認調査図

第2章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

西の内遺跡は宇都宮市の中心部より約6.8km南西の西川田町辻の内に位置する。周囲は水田と畑地に新興住宅地が部分的に混在する田園地帯であるが、東側を県道2号宇都宮栃木線、西側は宇都宮環状道路が走っており、南側約400mには、栃木県子ども総合科学館が所在する。

宇都宮市は栃木県の県庁所在地で、県を代表する都市である。県のほぼ中央に位置し、東京から北へ約100km、地形的には中央低地西端から足尾山地に連なる境界部を占めている。北西には足尾山地の東縁の一部である古賀志、半蔵、高館の各山地が控え、古賀志山地の南東側には大谷丘陵が連なる。ここから産出する緑色凝灰岩は「大谷石」の名で知られ、建築用石材として広く流通している。しかし市の大半は南北に流下する河川と、それに並行する台地や沖積低地で占め



第2図 西の内遺跡の位置図 (国土地理院発行1:50,000「宇都宮」に加筆)

られている。これらは東から清原台地（真岡台地・宝積寺段丘=上位段丘面）、鬼怒川低地（絹島段丘=下位段丘面）、岡本・田原台地（宝木段丘=中段丘面および田原段丘=下位段丘面）、田川低地、鹿沼台地（宝積寺段丘=上位段丘面）として分類されている。

本遺跡は宝木台地の西縁、標高約97mの台地上に立地する。今回の調査地点より500mほど北西には姿川が複雑に蛇行して流下している。現在は圃場整備により掘削され、姿川低地との比高はほとんどなく、ほぼ平坦な地形を呈している。しかし地元の古老によると、以前の地形は姿川低地に臨む地点で現在より2～3m高く、東へ向かってなだらかな傾斜を示していたという。

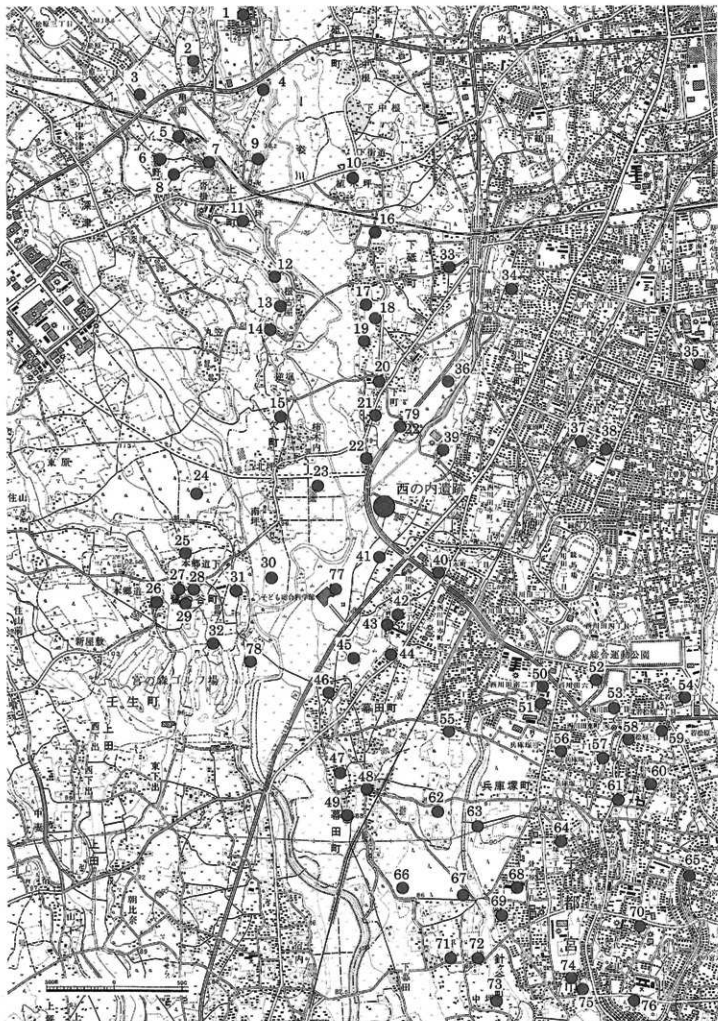
本遺跡が位置する宝木台地は、東西の沖積低地に挟まれるように南北に長く伸びる。北端は今市扇状地の扇端にあたり、南部は雀宮、石橋（下野市）を超えて小山市・野木町まで連する。この台地は宝木面に相当し、宝木層以上の火山灰を載せている。姿川は市北西部の半蔵山麓を源とし、蛇行しながら谷底平野を形成して市西部を南流している。この低地は東側の宝木台地と比高2～3mの崖線をもって接続しているが、西側の鹿沼台地との接続は10～30mの急崖となっており、姿川に沿って樹枝状に幅500～1,300m続いている。

2 歴史的環境

西の内遺跡が位置する宝木台地周辺は宇都宮市内でも有数の遺跡密集地帯として知られている。宝木台地は東側を田川低地、西側を姿川低地に挟まれるように広がっており、台地内部には鶴田川、西川田川、兵庫川などの小河川が形成した幅の狭い開析谷が樹枝状に入り込んでいる。遺跡の多くは、このような沖積低地や小支谷に沿った台地上に集中分布しており、時代的にも旧石器時代から近世に至るまで多岐にわたっている。



第3図 西の内遺跡の地形図



No	遺跡名	種類	時代	No	遺跡名	種類	時代
1	上欠団地遺跡	集落跡	縄文	41	辻の内遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
2	初網遺跡	集落跡	縄文	42	星宮神社遺跡	散布地	奈良・平安
3	高尾神遺跡	集落跡	縄文	43	西川田屋宮神社古墳	古墳	古墳
4	富士山台遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	44	葛田堀遺跡	集落跡	奈良・平安
5	亀岡前古墳群	古墳	古墳	45	姿川第一小南遺跡	集落跡	古墳・歴史
6	亀岡坪遺跡	集落跡	奈良・平安	46	合ノ畑遺跡	集落跡	奈良・平安
7	定使古墳	古墳	古墳	47	樋口城跡	城館跡	室町
8	香掛遺跡	集落跡	奈良・平安	48	堂前西遺跡	集落跡	奈良・平安
9	船荷古墳群	古墳	古墳	49	幕田屋宮神社古墳	古墳	古墳
10	植の内古墳	古墳	古墳	50	小野洲器北遺跡	集落跡	縄文(中期)
11	聖山公園遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安	51	旭マーケット前遺跡	集落跡	縄文(加B)
12	根古谷台遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	52	塚山北遺跡	集落跡	古墳
13	犬飼城跡	城館跡	室町	53	塚山古墳群	古墳	古墳
14	宿尻遺跡	集落跡	古墳	54	北若松原遺跡	集落跡	古墳・奈良
15	上欠北原遺跡	集落跡	奈良・平安	55	東屋敷遺跡	集落地	縄文
16	下砥上町北遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	56	旭ヶ丘団地北遺跡	集落地	縄文
17	主計内遺跡	集落跡	奈良・平安	57	旭ヶ丘団地遺跡	集落跡	縄文
18	下砥上愛宕塚古墳	古墳	古墳	58	二軒屋遺跡	集落跡	弥生・古墳
19	ひのき内遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	59	若松原遺跡	集落跡	縄文～古墳
20	下砥上古墳群	古墳	古墳	60	西原北遺跡	集落跡	縄文～古墳
21	下の内北遺跡	集落跡	奈良・平安	61	若松原南遺跡	集落跡	古墳
22	下砥上下の内遺跡	集落跡	縄文・古墳	62	堂前東遺跡	集落跡	古墳・奈良
23	亀塚古墳	古墳	古墳	63	兵庫塚西原遺跡	集落地	古墳・奈良
24	下台原古墳群	古墳	古墳	64	下原遺跡	集落跡	古墳・歴史
25	大明神遺跡	集落地	古墳～平安	65	雀の宮四丁目遺跡	集落跡	古墳
26	本郷道上I遺跡	集落跡	奈良	66	幕田古墳群	古墳	古墳
27	大明神南遺跡	集落跡	奈良	67	上坪遺跡	集落跡	弥生～奈良
28	大明神南古墳	古墳	古墳	68	針ヶ谷新田古墳群	古墳	古墳
29	萩山遺跡	集落跡	古墳	69	上坪新田遺跡	集落跡	縄文～奈良
30	亀塚古墳	古墳	古墳	70	大谷田遺跡	集落跡	奈良・平安
31	歴久保遺跡	集落地	縄文・古墳	71	熊野神社南遺跡	集落跡	奈良
32	安塚上原古墳群	古墳	古墳	72	立海道遺跡	集落跡	古墳・奈良
33	並塚古墳	集落跡	古墳	73	見明遺跡	集落地	縄文・弥生・奈良
34	ヤジカ遺跡	集落跡	奈良	74	二子塚北遺跡	集落跡	弥生
35	ガンセンター東遺跡	集落跡	奈良・平安	75	二子塚古墳	古墳	古墳
36	山ノ神遺跡	集落跡	縄文	76	天狗原雀宮中前遺跡	集落地	縄文～古墳
37	自働車教習所北遺跡	集落跡	縄文(中期)	77	花の木遺跡	集落地	古墳
38	緑ヶ丘小北遺跡	集落跡	奈良	78	宮の森遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
39	北之原遺跡	集落跡	奈良・平安	79	柿の内遺跡	集落跡	古墳
40	星の宮神社北遺跡	散布地	奈良・平安				

第1表 周辺遺跡一覧表

縄文時代

本遺跡からはやや離れるが、草創期～早期の遺跡として、姿川上流の左岸に早期の土器が出土した大谷寺洞穴遺跡がある。また、その下流には、半円状に長方形大型建物跡や掘立柱建物群が配置された前期中葉の根古谷台遺跡(12)があり、中央の広場からは、秩状耳飾や管玉などの装身具や副葬品を伴う墓壇群が多数発見されている。中期後葉～後期の遺跡としては、上欠団地造成に伴って調査された上欠団地遺跡(1)があり、多数の住居群や配石遺構、屋外埋設土器などが確認されている。このほか、本遺跡近隣の当該期の遺跡としては、下砥上下の内遺跡(22)、二軒屋遺跡(58)、西原北遺跡(60)などがある。

弥生時代

本遺跡の周辺では、弥生時代の遺跡の調査は十分にされていない。前出の二軒屋遺跡は、弥生後期の二軒屋式土器の標式として著名であるが、正式な調査が行われないうまま、周辺の住宅化が進んでしまったため、遺跡の詳細な内容は不明である。また、上坪遺跡(67)では、弥生後期土器が出土している。

古墳時代

古墳時代に入ると、前代までと比べ遺跡の増加がめざましく、古墳時代前期の集落跡が発見された花の木町遺跡(77)、古墳時代前期～平安時代の集落跡が発見された宮の森遺跡群(78)、古墳時代中期後半から後期の集落跡が発掘された柿の内遺跡(79)などが所在する。この時期の遺跡は、沖積低地中の微高地上に立地する例が認められるようになるのも大きな特徴である。この時代の集落跡として、宿尻遺跡(14)、萩山遺跡(29)、並塚遺跡(33)、姿川第一小南遺跡(45)、塚山北遺跡(52)、下原遺跡(64)などが挙げられる。

一方、古墳の分布も顕著であり、本遺跡の東側には前方後円墳や帆立貝式前方後円墳を擁する塚山古墳群(53)、その南側には4基の円墳を擁する針ヶ谷新田古墳群(68)、北側には下砥上古墳群(20)などがある。

奈良・平安時代

周辺において、当該時期の遺跡として調査が行われた例は数少ない。本遺跡の南方約2kmの宮の森遺跡では、平安時代の住居跡から土師器や須恵器に墨書されたものが発見されている。この住居からは漆紙や灯明具等が発見されており、漆を扱う工人の住居であったとも考えられる。前出の根古谷台遺跡(12)からは、奈良時代の住居や掘立柱建物跡が発見されている。また、本遺跡では、3基の経塚が調査されており、うち1基からは「享祿2年」(1529年)の銘が刻まれた経筒が出土している。この他、周辺に所在する当該期の遺跡としては、辻の内遺跡(41)、大明神遺跡(25)、ひのき内遺跡(19)、下の内北遺跡(21)、北之原遺跡(39)、合ノ畑遺跡(46)、堂前西遺跡(48)などがある。

中世

中世の城館跡としては、根古谷台遺跡の南に犬飼城跡(13)がある。この城跡には堀切や武者走り、土塁等が残っており、本丸、二の丸、外郭に仕切られ、この城から尾根伝いに鹿沼にいたる古道がある。詳細については不明であるが、宇都宮領の西南の有力支城と考えられる。また、本遺跡の南東約2.5kmには、南西郭と思われる部分に空堀と土塁を残す樋口城跡(47)がある。詳細については不明な点が多いものの、貞応元年(1222年)には、樋口主計頭が城主であったと伝えられる。

第3章 調査概要

今回の調査は、住宅団地内の道路部分で中世の遺構が確認された部分について行った。その結果、土坑41基、地下式坑1基、井戸3基、堀1条、溝1条、ピット等が確認された。以下、その結果について記す。

1 遺構

土坑 (第6～9図・第2表)

土坑は第2表に示す通り、長方形・円形・方形・楕円形のもの確認された。中でも長方形のものが多く確認されている。

調査区の東側では、27号・29号～37号・39号のような細長く浅い土坑が確認された。長さは3～6m、幅が0.5～0.7m、確認面からの深さが10～20cmのもので、そのほとんどは覆土が単層で、締りがない。出土遺物もないことから、新しい時期の遺構と思われる。これらの土坑群を今後の説明上A群と呼ぶこととする。

調査区の西側を中心に、3号～8号・11号・12号・16号・17号・23号～26号・33号・38号・42号・46号・49号・50号・54号のような長方形で深さのある土坑が確認されている。長さが1.8m前後で、幅0.7m前後、確認面からの深さが40～80cmのものである。11号・12号・49号のようなオーバーストック味の断面を呈するものもある。主軸が南北方向のものと東西方向のものがある。出土遺物はない。38号を35号が切っていることから、先に述べた、A群土坑よりは、古い時期のものと考えられる。これらの土坑群を今後の説明上B群と呼ぶこととする。

44号は、B群の土坑よりも長く、埋土中より多量の川原石が出土している。その規模は、長さが3.5m、幅が0.9m、確認面からの深さが60cmである。45号を切る。出土遺物は、かわらけ1点(第11図12)と、川原石に混じって茶白片(第13図27)が出土している。

9号・26号は方形の土坑である。9号は、平面が1.1m×1.2mで、確認面からの深さが10cm、26号は、平面が0.7m×0.8mで、確認面からの深さが10cmである。何れも出土遺物はない。これらの土坑群を今後の説明上C群と呼ぶこととする。

1号・13号・15号・18号・20号・28号は円形の土坑である。1号・18号・28号のように直径0.7m前後のものとして13号・15号・20号のように直径1～1.2mのものがある。何れも確認面からの深さが10～30cmと浅い。1号は2号に切られ、15号は16号に切られ、20号は19号に切られ、28号は22号に切られる。出土遺物はないが古い時期の遺構と考えられる。これらの土坑群を今後の説明上D群と呼ぶこととする。

55号は楕円形の土坑である。長軸が1.3m、幅が0.4m、確認面からの深さが97cmである。かわらけ1点、内耳土器1点が出土している。

井戸 (第6～8図)

2号・19号・40号は井戸跡と考えられる。2号は、調査区外に一部かかるが、直径約1.5mで、1号と3号を切る。埋土上層で川原石がまとまって出土している。また、内耳土器1点(第12図20)、鉄釘もしくは鉄線とおもわれる鉄製品が4点(第14図31～34)出土している。19号は直径約1mで、20号と21号を切る。40号は直径約1.4mである。埋土中からかわらけ(第11図6～

10) が出土している。その中の8は灯明皿として使用されたものと思われる。

地下式坑 (第9図)

43号は、地下式坑で天井が崩落した状態で確認された。入口部分は東側で、南北に2カ所の地下室とその中間に西側に張出した小地下室が設けられている。南側の地下室は、奥行きが1.3m、横幅が1m、地下室の高さは1mで、確認面からの深さは1.7mである。北側の地下室は、奥行きが1.2m、横幅が1.7m、地下室の高さは1mで、確認面からの深さは1.7mである。中央の小地下室は、奥行きが0.5m、横幅が0.5mである。7号に切られる。出土遺物はない。

堀・溝跡 (第10図)

22号と41号は溝もしくは堀跡である。

22号は、長さが27m、幅が0.8～1.2m、深さが50～70cmの溝跡である。断面形は逆台形もしくは薬研状を呈する。埋土中よりかわらけが6点(第11図1～5、19)、内耳土器1点(第12図21)が出土している。

41号は、22号の1.2m南に位置する南北方向の堀跡である。長さ1.7mほど確認できたが、その南側は調査区外にのびる。幅は1.5～1.8mで、深さは1.2mの薬研状を呈する。断面観察の結果、上幅0.6m、下幅0.2m、深さ50cmの小規模な溝に掘り直されている。また、25号、46号、47号の土坑を切る。埋土中からかわらけが1点(第11図11)が出土している。

ピット群 (第5図)

調査区の西側から多数のピットが確認できた。これらの中には掘立柱建物跡の柱穴と考えられるものがあるが、その組合せに関しては不明である。

2 遺物

遺物が出土した遺構は限られている。井戸跡の2号から内耳土器と鉄製品、40号からかわらけ、溝跡の22号からかわらけと内耳土器、堀跡の41号からかわらけ、土坑の44号からかわらけと茶臼、45号からかわらけ、55号からかわらけと内耳土器が出土している。

かわらけは、何れもロクロ成形のもので、口径が10cm前後のものと6cm前後のものがある。また、器形は直線的に開くものとやや内湾気味に開くものがある。

内耳土器は器高が17cmの深身のもの、12cm前後のやや浅いものがある。

石製品は茶臼2点・石臼1点・砥石1点が出土している。

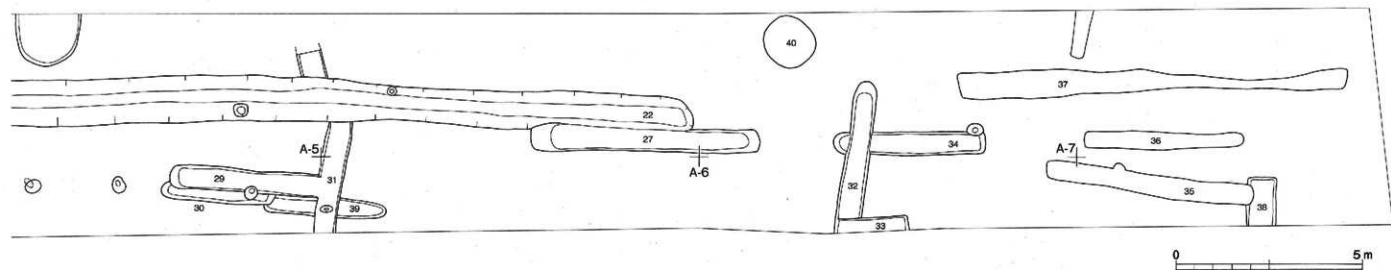
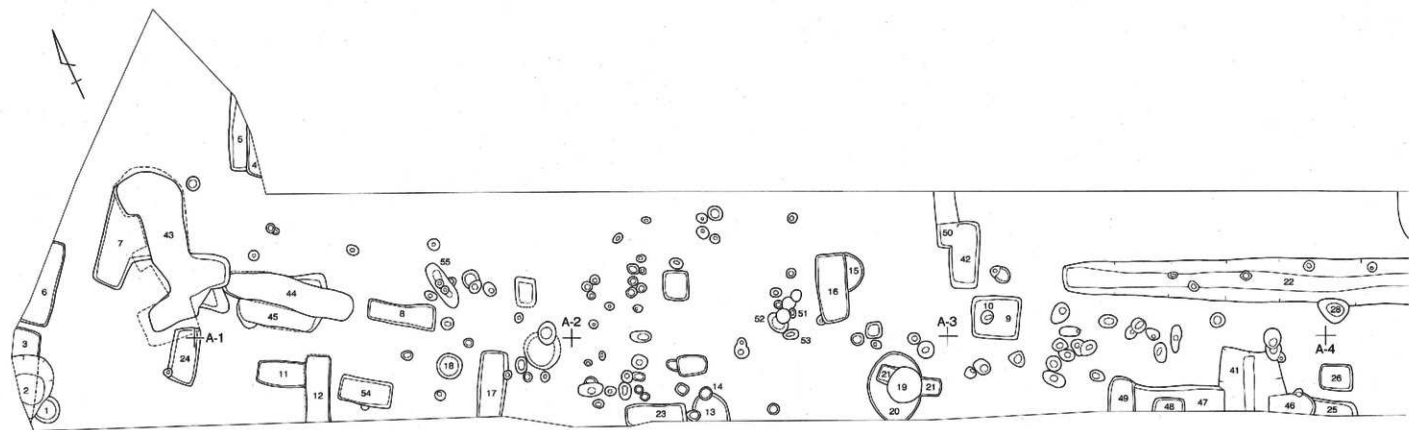
鉄製品は鉄鍔と思われるものが2点、釘が2点、鉄滓が1点出土している。

この他に、22号から古代の須恵器蓋1点が出土している。

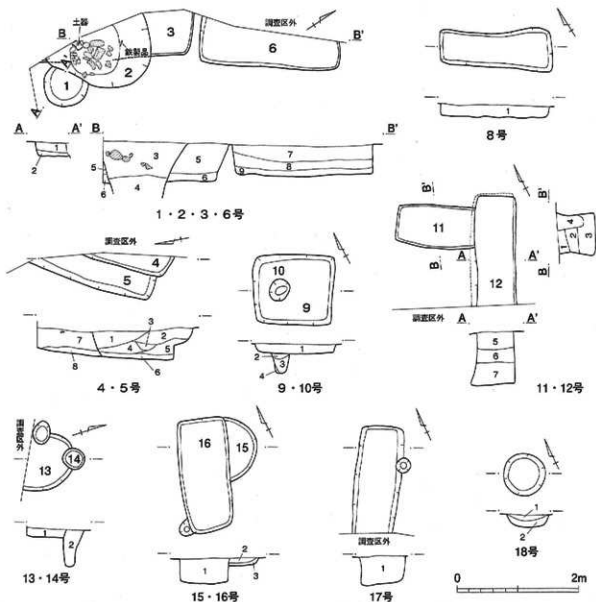
詳細については第3表のとおりである。

遺構名	規模 (m)			形態	備考
	長軸	短軸	深さ		
1	0.70	-	0.22	円形	
3	-	-	0.60	長方形	
4	-	-	0.44	長方形	
5	-	-	0.34	長方形	
6	2.24	-	0.50	長方形	
7	5.50	-	0.50	長方形	
8	1.80	0.68	0.20	長方形	
9	1.30	1.10	0.18	方形	
10	0.38	0.32	0.30	円形	柱穴
11	-	0.70	0.60	長方形	
12	-	0.64	0.84	長方形	
13	-	0.90	0.14	円形	
14	0.38	0.34	0.54	円形	柱穴
15	-	1.00	0.12	円形	
16	5.30	0.80	0.40	長方形	
17	-	0.74	0.46	長方形	
18	0.70	0.68	0.18	円形	
20	1.80	1.40	0.10	円形	
21	1.70	0.50	0.34	長方形	
23	1.60	0.56	0.16	長方形	
24	1.50	0.76	0.42	長方形	
25	-	-	0.20	長方形	
26	0.86	0.70	0.10	方形	
27	6.10	0.74	0.30	長方形	
28	0.80	0.64	0.40	円形	
29	-	0.60	0.36	長方形	
30	3.00	0.44	0.08	長方形	
31	-	0.68	0.22	長方形	
32	-	0.66	0.08	長方形	
33	1.96	-	0.48	長方形	
34	4.00	0.62	0.08	長方形	
35	5.50	0.60	0.20	長方形	
36	4.20	0.50	0.16	長方形	
37	10.20	0.56	0.24	長方形	
38	-	0.78	0.22	長方形	
39	3.20	0.54	0.08	長方形	
42	1.78	0.78	0.18	長方形	
43	4.50	2.65	1.68	不整形	地下式坑
44	2.50	0.80	0.60	長方形	川原石が多量に出土。
45	2.35	1.50	0.35	長方形	
46	-	-	0.64	長方形	
47	-	-	0.30	長方形?	
48	-	0.86	0.58	長方形?	
49	-	0.70	0.60	長方形	
50	-	0.60	0.16	長方形	
51	0.28	0.16	0.40	楕円形	
52	0.60	0.40	0.62	楕円形	
53	0.40	0.26	0.66	楕円形	
54	1.40	0.70	0.46	長方形	
55	1.30	0.44	0.57	楕円形	

第2表 土坑・柱穴一覧表



第5図 遺構配置図 (1/100)



1・2・3・6号

- 1 褐色土 (L R 腹、やややわらかい)
- 2 褐色土 (L R 少)
- 3 褐色土 (L R 少、とてもやわらかい)
- 4 褐色土 (L R 少、微LB少、とてもやわらかい)
- 5 褐色土 (L R 少、微LB散、I P 腹、やややわらかい)
- 6 褐色土 (L R 少、やわらかい)
- 7 褐色土 (L R 散)
- 8 褐色土 (L R 少、やややわらかい)
- 9 褐色土 (L R 少、微LB散、やわらかい)
- L = 97.200m

4・5号

- 1 褐色土 (L R やや多、やややわらかい)
- 2 褐色土 (L R 少、やややわらかい)
- 3 褐色土 (L R 少、やわらかい)
- 4 暗褐色土 (L R 多、微LB少、やわらかい)
- 5 褐色土 (L R やや多、小LB散、微LB少、とてもやわらかい)
- 6 褐色土 (L R 少、やわらかい)
- 7 褐色土 (L R 少、微LB散、やややわらかい)
- 8 褐色土 (L R やや多、小LB少、微LB やや多、やわらかい)
- L = 97.200m

8号

- 1 褐色土 (L R 少、微LB散、やややわらかい)
- L = 97.000m

9・10号

- 1 褐色土 (L R 少、微LB散、やややわらかい)
- 2 褐色土 (L R 少、微LB少、やややわらかい)
- 3 暗褐色土 (L R 散、微LB散、やややわらかい)

4 暗褐色土 (L R やや多、微LB やや多)

- L = 97.200m
- 11・12号
- 1 褐色土 (L R 少、微LB少、やわらかい)
- 2 褐色土 (L R やや多、小LB少、微LB やや多、やややわらかい)
- 3 暗褐色土 (L R やや多、微LB やや多、やややわらかい)
- 4 暗褐色土 (L R 少、小LB少、やわらかい)
- 5 明褐色土 (L R 多、小LB やや多、微LB 多、やややわらかい)
- 6 褐色土 (L R やや多、小LB 少、やわらかい)
- 7 暗褐色土 (L R 多、小LB やや多、微LB やや多、やややわらかい)
- L = 97.200m

13・14号

- 1 褐色土 (L R 少、微LB散)
- 2 暗褐色土 (L R 少、微LB少、やややわらかい)
- L = 97.200m

15・16号

- 1 暗褐色土 (L R 散、微LB散、やややわらかい)
- 2 褐色土 (L R 少)
- 3 暗褐色土 (L R やや多、ややしまりあり)
- L = 97.200m

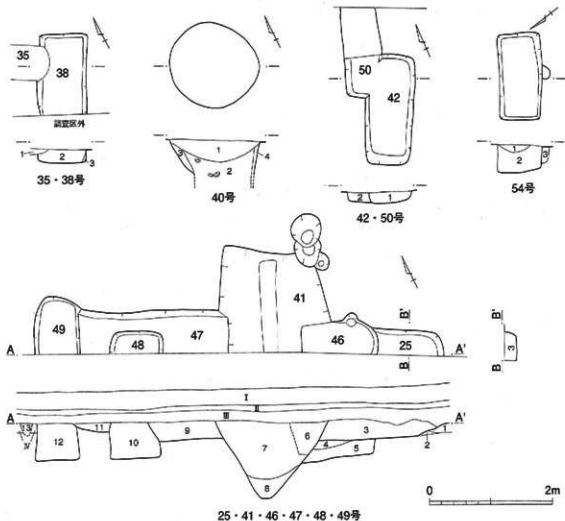
17号

- 1 暗褐色土 (L R やや多、微LB やや多、やわらかい)
- L = 97.100m

18号

- 1 褐色土 (L R 少、やややわらかい)
- 2 暗褐色土 (L R 少、微LB少)
- L = 97.100m

第6図 土坑等平・断面図(1)



35・38号

- 1 茶褐色土 (LR微)
 2 暗褐色土 (LR少、小LB微)
 3 黄色土 (LR多)
 L=97.00m

40号

- 1 暗褐色土 (LRやや多、小LB微、IP微)
 2 黒褐色土 (LR微、やわらかい)
 3 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少)
 4 暗黄褐色土 (LRやや多)
 L=96.90m

25・41・46・47・48・49号

- I 表層
 II 暗褐色土 (床土層)
 III 暗褐色土 (地山)
 IV 黒褐色土 (地山)
 1 褐色土 (LR微)
 2 黄褐色土 (LR多)
 3 暗褐色土 (LRやや多、小LB少)

4 褐色土 (LRやや多、小LB少)

- 5 黄褐色土 (LRやや多、LB多)
 6 暗褐色土 (LR微、小LB微)
 7 黄褐色土 (LR多、LBやや多、大LB少)
 8 暗褐色土 (LR、LB微)
 9 暗褐色土 (LR、小LBやや多)
 10 暗黄褐色土 (LRやや多、LBやや多)
 11 暗褐色土 (LR少)
 12 暗黄褐色土 (LRやや多、LBやや多)
 13 暗黄褐色土 (LRやや多)
 L=97.200m

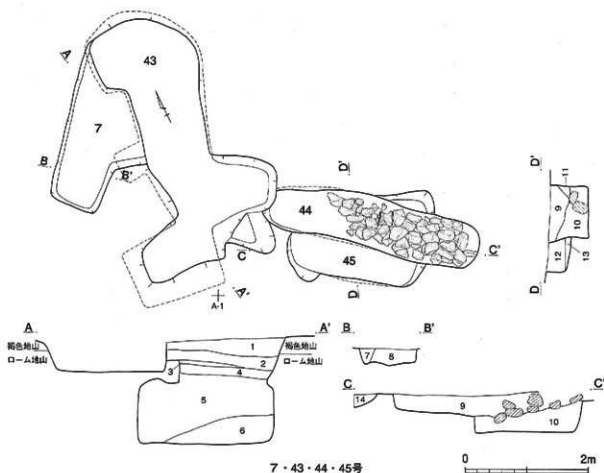
42・50号

- 1 褐色土 (LRやや多、微LB少、やややわらかい)
 2 褐色土 (LRやや多、微LBやや多)
 L=97.100m

54号

- 1 暗褐色土 (LRやや多)
 2 暗褐色土 (LR・LBやや多)
 3 褐色土 (LRやや多)
 L=97.100m

第8図 土坑等平・断面図(3)



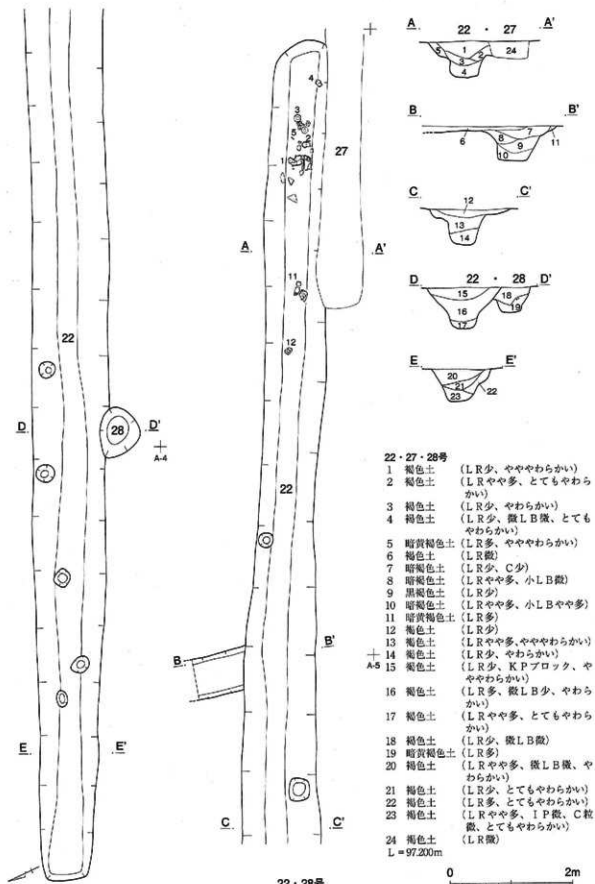
7・43・44・45号

7・43・44・45号

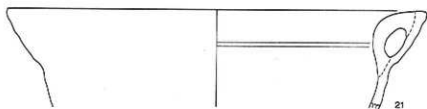
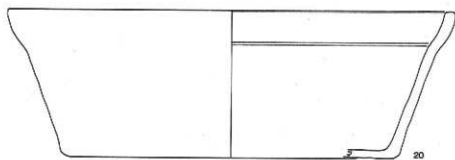
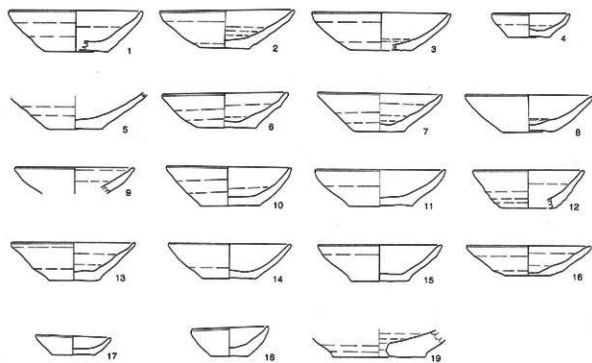
- 1 褐色土 (LR酸)
- 2 暗褐色土 (LR少)
- 3 褐色土 (LRやや多、LB少)
- 4 黒褐色土 (LR少)
- 5 黄褐色土 (LRやや多、ローム(大-小)多)
- 6 黒褐色土 (LRやや多、小LB少)
- 7 褐色土 (LR多、とてもやわらかい)

- 8 褐色土 (LRやや多、微LB少)
 - 9 暗褐色土 (LR少、小LB微、IP)
 - 10 黒褐色土 (LR少)
 - 11 褐色土 (LR少、LB少)
 - 12 暗褐色土 (LRやや多)
 - 13 褐色土 (LRやや多、小LB少)
 - 14 褐色土 (LR酸)
- L = 97.100m

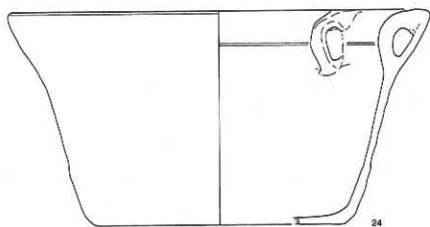
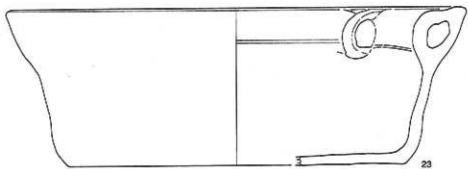
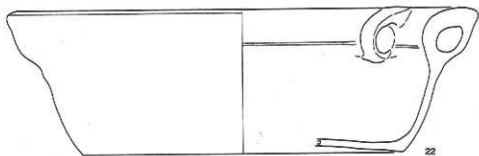
第9図 土坑等平・断面図(4)



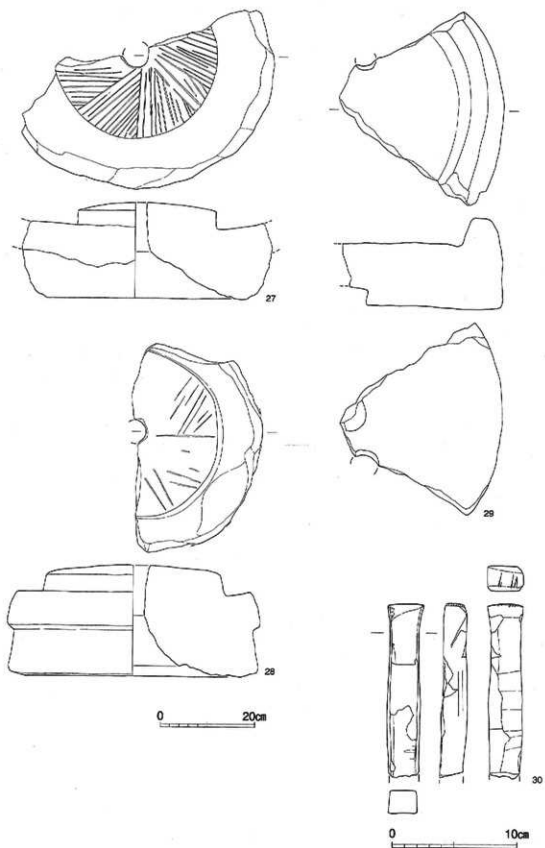
22 · 28号
 第10図 溝跡平・断面図



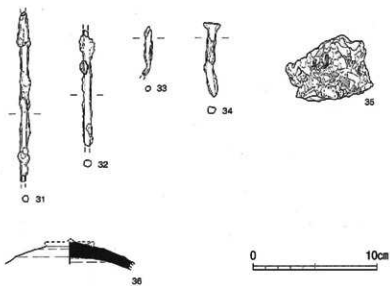
第11圖 出土遺物実測図(1)



第12図 出土遺物実測図(2)



第13圖 出土遺物実測図(3)



第14圖 出土遺物実測図(4)

No.	品 類	寸法 (cm)		(g)		形状の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径	重量							
1	かわらけ	(10.0)	3.3	(5.0)		平底で、腰部は直線的に開き、口唇部を狭み上げる。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	1/3残 塚村首 灯明皿
2	かわらけ	10.9	3.2	4.0		平底で、腰部は直線的に開き、口唇部を狭み上げる。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、飯付状正取。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	3/4残
3	かわらけ	(11.2)	3.0	(5.0)		平底で、腰部はやや内肉気味に開く。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、飯付状正取。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	1/3残
4	かわらけ	(6.3)	2.9	3.4		平底で、腰部は直線的に開き、口唇部を狭み上げる。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、飯付状正取あり。	乳白色	白-黒色粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	2/3残
5	かわらけ			4.5		平底。	ロクロ成形。飯付状正取。	白-黒色粒	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	22号 №12	1/3残
6	かわらけ	10.2	2.9	4.7		平底で、腰部は直線的に開き、口唇部を狭み上げる。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	40号	3/4残
7	かわらけ	10.2	3.1	4.1		平底で、腰部は直線的に開き、口唇部を狭み上げる。	ロクロ成形。内面にロクロ目が残る。足込みナゲ。底部回転糸切り。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	40号	2/3残
8	かわらけ	10.4	3.1	4.1		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。内面は強く磨かれた後、足込み部ナゲ。底部回転糸切り。	淡青色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	40号	3/4残 塚村首 灯明皿
9	かわらけ	(9.6)					ロクロ成形。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	40号 塚土中	口縁～腰部 残片1/3残
10	かわらけ	10.0	3.2	4.7		平底で、腰部はやや内肉気味に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、ナゲ。飯付状正取あり。	青色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	41号 塚土中	2/3残
11	かわらけ	(10.5)	2.9	5.0		平底で、腰部はやや内肉気味に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	淡青色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	41号 塚土中	1/3残
12	かわらけ	9.0	3.0	(4.4)		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、飯付状正取。	灰白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	44号	1/3残
13	かわらけ	(10.0)	3.0	(4.0)		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、ナゲ。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	45号	2/3残
14	かわらけ	(9.8)	2.8	4.1		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	内面 灰褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	55号 塚土中	1/3残
15	かわらけ	(10.0)	2.9	4.5		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、ナゲ。	明褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	2/3残
16	かわらけ	(5.0)	2.4	(3.8)		平底で、腰部は直線的に開く。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、飯付状正取。	淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	1/4残
17	かわらけ	6.0	1.6	3.4		平底で、腰部はやや内肉気味に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	乳白色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	3/4残
18	かわらけ	6.2	2.4	3.0		平底で、腰部はやや内肉気味に開く。	ロクロ成形。足込み部ナゲ。底部回転糸切り後、飯付状正取。	淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	ほぼ完形 塚村首 灯明皿
19	かわらけ			7.5		平底。腰部に直径8mmの孔がある。	ロクロ成形。底部回転糸切り後、ナゲ。	内面 淡褐色 外面 明褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	底部1/2残
20	内耳土器	(35.8)	12.7	(26.0)		口縁部端は平直。平底。		内面 黄褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	2号 №21	1/8残 外面に飯付者
21	内耳土器	(33.0)	(7.8)			口縁部端は平直。		内面 明赤褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	2号 №11	口縁～腰部 外面に飯付者
22	内耳土器	(38.0)	11.3	(26.0)		口縁部端は平直。平底。		内面 明赤褐色 外面 淡褐色	白色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	55号 塚土中	1/2残 外面に飯付者
23	内耳土器	(37.0)	12.5	(26.0)		口縁部端は平直。平底。		内面 黄色 外面 淡褐色	白色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	1/2残 外面に飯付者
24	内耳土器	(34.0)	(17.0)	(20.0)		口縁部端は平直。平底。		内面 明赤褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	1/2残 外面に飯付者
25	内耳土器					口縁部端平直。		内面 明褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	口縁部残片 外面に飯付者
26	内耳土器	(35.6)				口縁部端平直。		内面 明褐色 外面 淡褐色	白-黒色粒、透明粒、赤色スクリア	良好	表紙	口縁～腰部 1/4残
27	赤白		10.1	(21.2)		受け腫用の赤をもつ。	目が細かい。				44号 №1	1/2残
28	赤白		11.5	(26.0)		受け腫用の赤をもつ。					表紙	1/2残
29	石白		9.6				目が細かい。				表紙	1/4残
30	磁石	長 (13.9)	幅2.4	厚1.8			使用部は3面。1面は工具痕。小口も使用。	灰褐色			表紙	
31	鉄製品 (鉄灰中)	長 (13.3)	幅1.0	厚 (0.5)	10.4			鉄			2号 №22	
32	鉄製品 (鉄灰中)	長 (9.3)	幅1.0	厚 (0.6)	8.3			鉄			2号 №22	
33	鉄製品 (灰)	長 (3.9)	幅0.4	厚0.4	1.6			鉄			2号 №22	
34	鉄製品 (灰)	長5.9	幅0.6	厚0.5	6.3			鉄			表紙	
35	鉄片			65.5				鉄			表紙	
36	銅製物 (銅)					錠子残状つまみ。	ロクロ成形。天井部削削へラケズ)後、つまみを削り付ける。	灰色	白色砂粒、透赤粒、赤色スクリア	良好	22号 塚土中	1/4残

第3表 出土遺物観察表

第4章 おわりに

今回の調査は、西の内遺跡の北西側にあたる一部を調査した。その結果、土坑55基、地下式坑1基、井戸3基、溝1条、堀1条、ピット群が確認された。

土坑は細長い土坑（A群）、長方形土坑（B群）、方形土坑（C群）、円形土坑（D群）に分けられる。

この中で遺構の切り合い関係や埋土状況から一番新しい時期のものはA群である。出土遺物がなく時期の特定はできないが、断面観察から水田床土層直下からの掘り込みが見られたことから、近世以降のものと思われる。

38号（B群）を35号（A群）が切っていることから、A群土坑よりもB群土坑は、古い時期のものと考えられる。また、11号と12号、42号と50号のようにB群同士が切り合っている場合や、主軸が東西方向と南北方向に分けられることから、少なくとも2時期あることがわかる。

1号（D群）は2号（井戸）に切られ、15号（D群）は16号（B群）に切られ、20号（D群）は19号（井戸）に切られ、28号（D群）は22号（溝）に切られていることから、D群は出土遺物がないものの古代もしくは中世期の遺構と考えられる。

土坑で出土遺物が確認できたものは、44号、45号、55号のみである。何れも上記の分類に属さない土坑で、出土したかわらけや内耳土器の形態から16世紀代の遺構と考えられる。

22号（溝跡）、41号（堀跡）、井戸跡と考えられる2号、40号から出土したかわらけや内耳土器の形態も16世紀代のもので、A群土坑を除くこれらの遺構はほぼ16世紀代のもと考えられる。

今回の調査区から南東約200mのところにあたる昭和53年に調査された地点では、古代の竪穴住居跡が11軒、中世の井戸13基、方形竪穴遺構18基、溝8条、地下式坑が4基のほか土坑や掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピット群が多数確認されている（栃木県教育委員会1981）。土坑の中には人骨が出土したものがあり、その形態が今回の調査でB群とした土坑と同じであることから、B群土坑の中には墓塚として使用されていたものもあったと考えられる。

この地点から出土した遺物の中には、口径が11cm前後のかかわらけや深身の内耳土器が含まれることから、15世紀後半まで遡る遺構があると考えられ、本調査地点よりは先行して集落が営まれていたものと考えられる。

また、本調査区の南から南西にかけての昭和62年度調査地点では、竪穴住居跡109軒、掘立柱建物跡2棟、井戸1基、溝21条、墓塚1基、土坑76基が確認されている（栃木県教育委員会1992）。竪穴住居跡等多くの遺構は古代のものであるが、このうち溝17条と土坑多数は中世期で、本調査区で確認された溝や堀跡との関連が考えられる。

なお、出土遺物を見ると、何れの地点においてもかわらけや内耳土器が主体で、陶磁器の出土がほとんど見られないことから、本遺跡は中世の一般的な集落跡であったと考えられる。

（参考文献）

栃木県教育委員会 1981 『道路建設地内遺跡発掘調査報告 辻の内遺跡』

栃木県教育委員会 1992 『辻の内遺跡・榑の内遺跡』

写 真 图 版



①全景 (東より)



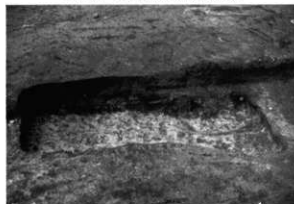
②全景 (西より)



③1号・2号出土状況 (東より)



④4号・5号セクション (南西より)



⑤8号完掘状況 (南より)



⑥9号セクション (南より)



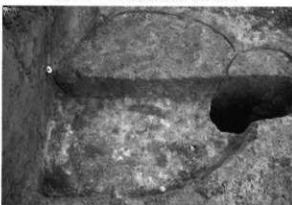
⑩10号セクション (南より)



⑨9号・10号完整状況 (南より)



⑫12号セクション (北より)



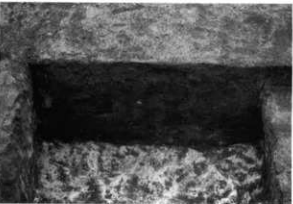
⑬13号セクション (東より)



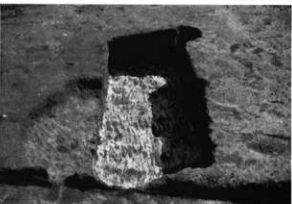
⑭14号セクション (東より)



⑮15号セクション (南より)



⑯16号セクション (南より)



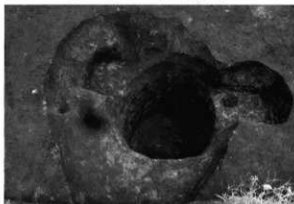
⑰15号・16号完整状況 (北より)



①17号セクション (南より)



②18号セクション (南より)



③19号～21号完掘状況 (南より)



④22号遺物出土状況 (北より)



⑤22号完掘状況 (東より)



⑥22号遺物出土状況 (北より)

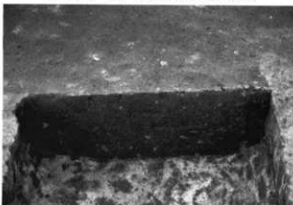
⑦24号完掘状況 (西より)



①25号・26号セクション (東より)



②29号・30号セクション (東より)



③31号セクション (南より)



④32号～34号完蓋状況 (西より)



⑤33号セクション (北より)



⑥33号セクション (南より)



⑦40号セクション (南より)



⑧41号・46号セクション (北より)



①42号・50号完掘状況(東より)



②43号セクション(北より)



③44号セクション(南より)



④44号セクション(西より)



⑤44号出土状況(西より)



⑥43号完掘状況(北より)



①43号完掘状況（西より）



②43号完掘状況（東より）



③44号集石状況（南より）



④44号集石状況（北より）



⑤44号完掘状況（西より）



⑥44号完掘状況（東より）



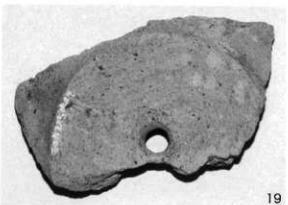
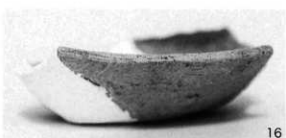
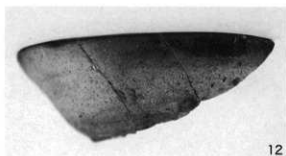
⑦47号～49号セクション（北より）

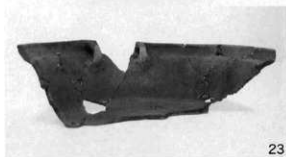


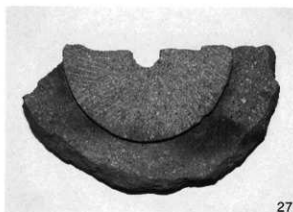
⑧54号完掘状況（北より）



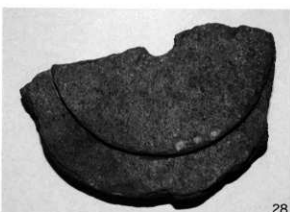
①かわらけ (1)





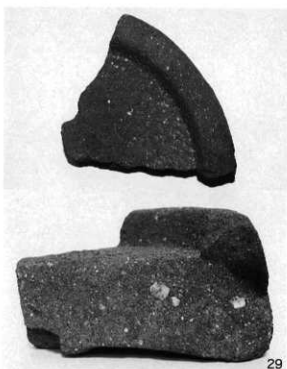


27



28

①茶臼



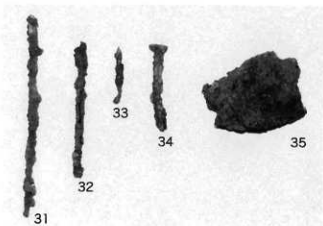
29

②石臼



30

③砥石



31

32

33

34

35

④鉄製品



36

⑤須恵器蓋

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしのうちいせき
書名	西の内遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第81集
編著者名	石川和弘・今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Tm028-632-2764
発行年月日	西暦 2013年(平成25年)6月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしのうちいせき 西の内遺跡	うつのみやし 西川田町	09201		36度 31分 2秒	139度 50分 37秒	2012.7.17 ～ 2012.8.3	470	住宅地造成に先立つ調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西の内遺跡	集落跡	中世	堀・溝・土坑・井戸・ 地下式坑	かわらけ、茶臼、 鉄製品等	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第81集

西の内遺跡

発行 宇都宮市教育委員会
編集 宇都宮市教育委員会
宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL 028-632-2764
発行日 平成25年6月30日発行
印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷
